

2014年度
世 界 史
(問 題)

〈H26083416〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～8ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	☒ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い
マークを消す時	☐ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意

- (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
- (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。
- (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数 字 見 本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

	万	千	百	十	一
(例) 3825番⇒		3	8	2	5

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

I 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

中国史上には幾多の王朝が興亡し、民衆反乱も数多く起こった。そのなかには王朝滅亡のきっかけや、原因となった反乱がある。後漢末の黄巾の乱は各地に波及し、外戚や宦官の跋扈は中央政府を混乱させ、王朝の権威は地に落ちた。永嘉の乱は、西晋の滅亡のみならず五胡政権の乱立と華北支配という、今までになかった状況を中国にもたらし、注目される。唐末の黄巢の乱は、塩の密売商人たちの挙兵で起こったが、その拡大の背景には王朝の腐敗と社会の困窮があった。

10世紀以降の北宋と南宋は、民衆反乱ではなく北からの女真とモンゴルによって滅ぼされたが、次の元は紅巾の乱、明は李自成の乱によって滅びた。最後の中国王朝である清は19世紀半ばになると I、続く太平天国の乱は宗教反乱として独自の様相を呈したが、最後は清朝側の軍事力によって鎮圧された。20世紀の中国共産党による中国革命も、あちこちに民衆反乱の痕跡を残している。

問A 下線部Aの説明として誤っているものはどれか。

1. 張角が開いた太平道の信者たちが蜂起し、華北一帯に広がった。
2. 張角の死後、張陵が太平道を継承して反乱軍を指導した。
3. 反乱の参加者が黄色の頭巾をつけたことから、こう呼ばれる。
4. 農村の疲弊と政府の組織への弾圧が反乱のきっかけとなった。

問B 下線部Bのなかで勢力を拡大した人物はどれか。

1. 曹操
2. 劉裕
3. 王莽
4. 班固

問C 下線部Cの説明として正しいものはどれか。

1. この乱によって司馬氏一族は長安から洛陽に遷り東晋を建てた。
2. この乱の名称は反乱の舞台となった温州の地名に由来する。
3. この乱の前に起こった八王の乱で西晋は弱体化した。
4. この乱の主役は西北から移動してきた羌族であった。

問D 下線部Dに該当しない胡族と政権の組み合わせはどれか。

1. 匈奴—前趙
2. 氐—前秦
3. 羯—後趙
4. 鮮卑—西魏

問E 下線部Eの説明として誤っているものはどれか。

1. 首謀者の黄巢は、科挙受験に失敗した経験があるといわれる。
2. 黄巢に先立ち、塩密売商人の王仙芝は黄河下流域で挙兵した。
3. 黄巢は、一時期長安を占領して皇帝となり国号を大齊と称した。
4. 黄巢の部下であった朱全忠は、長安を都として後梁を建国した。

問F 下線部Fの説明として誤っているものはどれか。

1. 女真は猛安・謀克、モンゴルは千戸制を軍事力の基盤とした。
2. 女真とモンゴルはツングース系遊牧民としてモンゴル高原を故地とした。
3. 南宋の武将岳飛は、徹底抗戦を主張して講和派に謀殺された。
4. 南宋の皇族趙孟頫は、元朝を代表する文人官僚として活躍した。

問G 下線部Gに関係のない人名・語句はどれか。

1. 白蓮教 2. 朱元璋 3. 弥勒下生 4. 史天沢

問H 下線部Hに先行する時代状況の説明として誤っているものはどれか。

1. 壬辰・丁酉の倭乱における朝鮮王朝への支援は、明の財政を悪化させた。
2. 三藩の乱の勃発は、中央集権政治を危機に陥らせた。
3. 東林・非東林の政治闘争は、社会不安を引き起こした。
4. 張居正は、王朝の安定のため内政・外政に強権を振るった。

問I ☐ 1 ☐ に入る正しい文章はどれか。

1. 福建を中心に天理教徒の乱が起こり
2. 民間の自衛組織である義和団が蜂起し
3. プロテスタント系宣教師が各地で布教し
4. 扶清滅洋の民衆運動が江南でたかまり

問J 下線部Jについての説明として誤っているものはどれか。

1. 均等の土地分配を主張し、天朝田畝制度を發布した。
2. 女性の自立を主張し、纏足を禁じた。
3. 辮髪の廃止を主張し、長髪賊と呼ばれた。
4. キリスト教布教を主張し、英国人ウォードを顧問にした。

問K 下線部Kに該当しないものはどれか。

1. 湘軍 2. 常勝軍 3. 捻軍 4. ☐ 4. 淮軍

問L 下線部Lに関係の深い語句はどれか。

1. 済南事件 2. 大西遷 3. 幣制改革 4. 塘沽停戦協定

Ⅱ 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

Enlightenmentとは日本語の「啓蒙」、無知蒙昧な状態を啓発し教え導くという意味もあるが、むしろそれは「批判の精神」を表している。18世紀フランスを中心にイギリス^A、ドイツ^Bなどにも現れた啓蒙思想家は、中世的な秩序、思想におおしく影響されていた当時、これを徹底的に疑い批判し、新しい近代的世界観を創造しようとした。その意味で、フランスに生まれ、のちにオランダ^Cで思索を続けたデカルトは、一切を疑い、それでもなお存在する己の意識を基礎に哲学原理を打ち立て、啓蒙思想の先駆的役割を果たした。またイギリスのジョン＝ロックも『統治二論』^D（『市民政府二論』）において王権神授説を疑い、批判することから近代政治理論を作り上げたのである。だが17世紀に活躍した思想家、科学者などは保守的な権力者の攻撃に立たされなければならなかった。その代表は地動説を主張し、1633年カトリック教会によって宗教裁判にかけられたイタリア人ガリレオ＝ガリレイであろう。

絶対君主ルイ14世^Fは「太陽王」として権勢を誇ったが、ユグノーの信仰の自由を奪った。かれが1715年に亡くなると、啓蒙思想家の中には、絶対主義国家を相対化し他の政治形態もあり得ることを示す者が出てきた。モンテスキューは1721年『ペルシア人の手紙』のなかでキリスト教世界とイスラーム世界^Gを比べることでキリスト教世界を相対化するとともに、フランスの政治、社会を厳しく批判したのである。経済の面では国家による重商主義的規制を批判した重農主義者^Hが現れ、かれらは富の源泉を土地に求め、市民の経済活動の自由を訴えた。

フランス啓蒙主義者はしばしば専制政治を批判したが、かれらは宮廷とつねに対立関係にあったわけではない。ルイ15世の愛妾ポンパドゥール夫人はヴォルテールのよき理解者であり、『百科全書』の出版にも助力を惜しまなかった。また外国の君主と親交を持つ者も現れた。プロイセン王フリードリヒ2世（大王）^Jがヴォルテールと文通を重ねていたのは有名である。またロシア女帝エカチェリーナ2世^Kもモンテスキューの思想の影響を受けていると言われ、オーストリアのヨーゼフ2世^Lも啓蒙専制君主として有名である。

問A 下線部Aに関して、18世紀のイギリスで制定された法律はどれか。

1. 権利の章典 2. 審査法 3. カトリック教徒解放法 4. 印紙法

問B 下線部Bに関して、18世紀のドイツで起こったことはどれか。

1. フランクフルト国民議会が開かれた。
2. カント著『純粋理性批判』が刊行された。
3. ワグナーが多くの歌劇を作曲した。
4. プルシェンシャフトが結成された。

問C 下線部Cに関して、17世紀オランダをめぐる出来事で内容が誤っているのはどれか。

1. 1621年、オランダ西インド会社が特許状を取得し設立された。
2. 1652年、オランダ領だったケープ植民地がイギリスに占領された。
3. 3次にわたるイギリス＝オランダ戦争（英蘭戦争）が起こった。
4. レンブラントが微妙な明暗と色彩に富んだ絵画を制作した。

問D 下線部Dに関して、『統治二論』（『市民政府二論』）より後に出版された著作はどれか。

1. ミルトン著『失樂園』
2. ホップズ著『リヴァイアサン』
3. スウィフト著『ガリヴァー旅行記』
4. フランシス＝ベーコン著『新オルガヌム』

問E 下線部Eに関して、イタリア史上の出来事で3番目にあたるのはどれか。

1. サルデーニャ王国がカヴールを首相に登用した。
2. イタリア戦争によって、繁栄を極めたルネサンスが衰退した。
3. カルボナリがナポリで蜂起した。
4. イタリア＝トルコ戦争に勝利して、トリポリ、キレナイカを獲得した。

問F 下線部Fに関して、ルイ14世の政治・経済・外交と関係ないものはどれか。

1. 自然国境説
2. 再版農奴制
3. ファルツ継承戦争
4. コルベールの登用

問G 下線部Gに関して、18世紀のイスラーム世界に起こった出来事はどれか。

1. セリム1世がマムルーク朝を滅ぼした。
2. オスマン帝国の宰相ミドハト＝パシャがミドハト憲法を制定した。
3. カージアル朝とロシアの間でトルコマンチャイ条約が締結された。
4. ムハンマドの時代のイスラーム教への回帰を唱えるワッハーブ運動が起こった。

問H 下線部Hに関して、重農主義者はどれか。

1. ブルードン
2. フーリエ
3. テュルゴー
4. コブデン

問I 下線部Iに関して、『百科全書』の編者、執筆者の説明で誤っているものはどれか。

1. ドルバックは唯物論者として知られる。
2. ヴォルテールは『哲学書簡』でイギリスの文物を批判したことで知られる。
3. ダランベールは解析力学の研究で知られる。
4. デイドロは小説『ラモアの甥』などで知られる。

問J 下線部Jに関して、フリードリヒ2世（大王）の説明として誤っているものはどれか。

1. 質素儉約、減私奉公を信条とし、「軍隊王」と称せられた。
2. サンスーシ宮殿を建てた。
3. 『反マキアヴェリ論』を著した。
4. フルートの楽曲を作るなど音楽家としての側面もあった。

問K 下線部Kに関して、エカチェリーナ2世の事跡はどれか。

1. ネルチンスク条約を締結した。
2. 北方戦争に勝利した。
3. プガチョフの農民反乱を鎮圧した。
4. キャフタ条約を締結した。

問L 下線部Lのヨーゼフ2世に関する説明で正しいものはどれか。

1. カルロヴィッツ条約でハンガリーを獲得した。
2. 農奴解放令を發布した。
3. ライプツィヒの戦いに加わった。
4. ビルニッツ宣言を出した。

Ⅲ 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

アメリカでは、17世紀初頭、カルヴァン派^Aなどから成るピューリタンたちがイギリスからニューイングランド^Bに入植した。そこにはインディアンたち先住民がいたが、そうした先住民は白人たちから激しい迫害を受けた。19世紀に入り、彼らはインディアン移住法（The Indian Removal Act）^Cの制定によってほぼ強制的に西部に移住させられ^D、その後も長きに渡って白人たちによるインディアンへの差別や迫害は続けられた。

また、アメリカでは、入植以降、多くのアフリカ人が奴隷として連れてこられ、使用されたが、そうした黒人たちもまた様々な形で差別や迫害を受けた。当初、黒人奴隷は、その多くが南部においてタバコ、藍や米の栽培に従事し、その後、Eが綿繰り機を発明して以降、イギリスにおける需要が拡大した綿花の栽培にも従事していた。1861年には、奴隷制度の拡大に反対していた北部と同制度を擁護していた南部との間で南北戦争^Fが起こった。同戦争中、当時の大統領であるリンカン^Hが奴隷解放宣言を出し、その内容を明文化したアメリカ合衆国憲法修正第13条により、表向きは奴隷制度は廃止された。しかし、南部の諸州を中心に実質的な奴隷制度の維持や黒人に対する差別は維持され続けた^I。

第二次世界大戦後、キング牧師^Jらの指導の下で公民権運動が活発となり、公共施設の利用等に関して人種差別を禁止する公民権法^Kの制定などに結実していったが、なおも事実上の差別は続いた。しかし、2009年には、アフリカ系初の大統領としてバラク＝オバマ^Lが就任するなど、アメリカにおける人種差別を巡る状況は少しずつ変化してきている。

問A 下線部Aの人物に関する記述として誤っているものはどれか。

1. 『キリスト教綱要』を執筆、公刊した。
2. 神による救済が与えられるか否かは、その人間の意思や善行次第で決まるという考え方を説いた。
3. ジュネーヴにおいて神権政治を行い、政治および宗教の改革を強力に指導した。
4. 司教制度を廃止し、信徒の中から長老を選んで牧師を補佐させる長老制度を取り入れた。

問B 下線部Bに関して、当時ニューイングランドとされた地域に含まれない植民地はどれか。

1. マサチューセッツ
2. ロードアイランド
3. コネティカット
4. ヴァージニア

問C 下線部Cに関して、同法に署名した大統領はどれか。

1. ジャクソン
2. ワシントン
3. ジェファソン
4. セオドア＝ローズベルト

問D 下線部Dに関連する説明で誤っているものはどれか。

1. ウーンデッドニーにおいてスー族インディアンに対する虐殺が行われた。
2. インディアン移住法の下で、チェロキー族をはじめとするほとんどのインディアンの部族をインディアン準州へ移住させ、その途上で多くの死者を出した。
3. 19世紀後半にアメリカ南西部においてジェロニモを中心とするアパッチ族が白人に対して激しく抵抗したものの、最後には降伏した。
4. 大陸横断鉄道の敷設などにクーリーとしてかり出され、過酷な労働を強いられた。

問E Eに当てはまる人物のように、18世紀後半の欧米において繊維産業の発展に重要な役割を果たした発明や開発を行った者ではない者はどれか。

1. アークライト
2. ハーグリーブズ
3. ダービー
4. カートライト

問F 下線部Fに関連する説明として正しいものはどれか。

1. イギリスに対する競争力維持の観点から保護関税政策を主張していた。
2. リンカンの大統領当選後、アメリカ連合国を結成してジェファソン=デヴィスをその大統領とした。
3. 北部と比べて多くの農民や奴隷を抱えており、人口が圧倒的に多かった。
4. 国を挙げて貿易を促進させていく必要性から、連邦政府の権限強化を主張していた。

問G 下線部Gに関連する説明で誤っているものはどれか。

1. 南軍がサムター要塞を攻撃したことが戦争の端緒となった。
2. ゲティスバーグの戦いにおいて北軍が勝利した。
3. 戦争の終盤、北軍はグラントを総司令官として戦った。
4. リッチモンドの陥落後、南軍を率いていたリーは北軍によって処刑された。

問H 下線部Hの人物に関する記述として誤っているものはどれか。

1. 弁護士としての仕事に従事していた。
2. ホイッグ党員であり、その後、共和党員として初めての大統領となった。
3. ホームステッド法に対して拒否権を発動し、インディアンの保護のために西漸運動を一時停滞させた。
4. 1865年、観劇中に暗殺された。

問I 下線部Iの記述と直接関係のない語句はどれか。

1. サッコ・ヴァンゼッティ事件
2. ジム=クロウ
3. K・K・K
4. 黒人取締法 (Black Code)

問J 下線部Jの人物に関する記述として誤っているものはどれか。

1. 公民権運動を非暴力主義に基づいて指導した。
2. 20万人以上の支持者を動員した1963年のワシントン大行進を指導した。
3. 南部における失業問題などからベトナム戦争を擁護した。
4. ノーベル平和賞を受賞した。

問K 下線部Kに関して、同法が制定された当時の大統領はどれか。

1. ケネディ
2. ジョンソン
3. ニクソン
4. フォード

問L 下線部Lの人物に関する記述として誤っているものはどれか。

1. 大統領就任前、イリノイ州選出の連邦議会上院議員を務めた。
2. 国民皆保険制度の導入を図るための医療保険改革法に対して拒否権を発動した。
3. 大統領就任後、核兵器の削減と核の平和利用のための仕組み作りなどを訴える演説をプラハで行った。
4. ノーベル平和賞を受賞した。

Ⅳ 次の文章を読み、空欄 1 ～ 13 は、記述解答用紙の所定欄に適切な語句を記入せよ。下線部14は、その独仏関係史上の意義について、普仏戦争の戦後処理および第一次世界大戦後の出来事を踏まえて100字以内で説明せよ。なお、句読点も1字と数える。

2013年にドイツとフランスはエリゼ条約（独仏協力条約）締結50周年を迎えた。この条約締結は第二次世界大戦後の両国の和解を象徴するものだったが、独仏対立の起源は古くフランク王国の分裂に遡る。カール大帝の死後、ヴェルダン条約・ 1 条約を経て帝国が分割され、9世紀に今日の両国の基礎が生まれた。王権の伸張とともに、フランス王はドイツ皇帝とヨーロッパ世界の覇権をめぐる長くイタリアの支配を争った。1559年に 2 条約を結びフランスはイタリア進出を断念したが、フランス絶対王政の興隆につれて 3 家とハプスブルク家の対立が激化する。

17世紀、三十年戦争後にプロイセンが急速に成長すると対立関係が変化し、1756年に始まった 4 戦争では両家の同盟が結ばれ、 5 と呼ばれた。1806年にはナポレオンがライン同盟を成立させ、 6 が最終的に消滅した。ウィーン体制下、1834年に 7 同盟を発足させたプロイセンはオーストリアを上まわる経済成長をとげ、ビスマルクが首相になると 8 政策により軍備拡張を進めた。プロイセンはオーストリアを退けて1867年に 9 を成立させ、さらにフランスを破って強大化し、ドイツの統一を実現した。

20世紀に入り、2回にわたって 10 事件が勃発すると独仏対立は陰悪化し、第一次世界大戦に突入した。戦後のヴェルサイユ体制のなかでフランスの地位が強化され、独仏関係は一定の安定に達したかに見えた。しかし、ナチス政権の出現により1930年代になると様相は一転した。1940年、フランス北半はドイツに占領され、南半には対ドイツ協力政権の 11 政府が作られたが、ロンドンに亡命したド＝ゴールは自由フランス政府を組織して抵抗を続けた。

第二次世界大戦後、フランスの 12 外相の提案で、フランス・西ドイツはベネルクス3国・イタリアとともに1952年にECSC¹⁴を発足させた。これが独仏の融和とEEC・EURATOM設立の出発点になり、EUの前身、ECの成立へとつながって行く。EC発足に先立つ1963年にド＝ゴール大統領と西ドイツ初代首相 13 がエリゼ条約に調印し、政治・経済・文化にわたる今日までの独仏協調関係の礎石が築かれた。

[以下余白]